



田淵行男

出品作家

今森 光彦
岩合 徳光
岩合 光昭
江川 正幸
栗林 慧
桜井 淳史
佐々木 崑
嶋田 忠
竹内 敏信
竹村 嘉夫
田中 光常
田中徳太郎
田淵 行男
田村 栄
富成 忠夫
中村 征夫
浜野 栄次
藤井 旭
星野 道夫
前田 真三
水越 武
宮崎 学



宮崎 学



竹村嘉夫



田中徳太郎

写真が発明された当時から、自然をありのままに、また正確に写しとどめたいという人々の思いは、自分たちの見た自然の美しさを記録にとどめ、その感動を誰かに伝えたいという素朴な欲求から生まれてきました。身近な生き物たちの生態から、雄大な大自然の風景にいたるまで、自然界への人々の興味は科学の申し子である写真機の眼を通して、より深く浸透してゆくことになります。

1970年代以降、自然界の現象をテーマとした「ネイチャー・フォト」は多様な表現を展開してゆきます。昆虫や動物、樹木や花、天体や自然風景、またミクロの世界など、その対象はさまざまな分野にひろがり、さらにこれらを総合してより科学的な面からアプローチする自然科学写真という概念が生まれたのもこのころです。わが国のみならず世界的な規模で環境問題への関心が高まり、自然界に生きる動植物の保護など、自然志向が一般化したこの時代には自然に目を向ける写真家たちの活動が活発化しましたが、彼らの活動を支える上でなくてはならない写真機材のメカニズムとカラー・フィルムの性能が飛躍的に向上したことも、ネイチャー・フォトの表現がより豊かなものに、また多彩なものになった要因といえます。

1980年代以降になると自然界を被写体とする写真家たちは、「写真家」という枠を越えて自然界に対する徹底した哲学と研究心をもって接してきました。彼らはこのかけがえのない地球に生きる私たち人間を含めた自然のあり方を、写真によって語ろうとしています。この展覧会では22人の日本人写真家がとらえたネイチャー・フォトを紹介し、その発達と表現の軌跡を紹介します。



岩合徳光



江川正幸



嶋田 忠



栗林 慧



桜井淳史

観覧料 一般・大学生 600円(480円) 小・中・高校生 300円(240円)
常設展との共通観覧料

一般・大学生 1,000円(800円) 小・中・高校生 500円(400円)
いずれも()内は20名以上の団体料金。小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護者1名は無料になります。(証明できるものをご持参ください)
開館時間 10:00~18:00(木・金曜日は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

1997年 4月19日[土]~5月25日[日]

東京都写真美術館 2階企画展示室

主催 東京都写真美術館/毎日新聞社

協賛 富士写真フイルム

協力 自然科学写真協会(SSP)/東武鉄道/田淵行男記念館/豊科近代美術館



東京都写真美術館

〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153

■本展は豊科近代美術館に巡回します。

会期/7月12日(土)~8月24日(日) 住所/長野県南安曇郡豊科町大字豊科5609-3 電話0263-73-5638

■展覧会予告 東京写真月間'97「家族のいる情景」5月31日(土)~6月15日(日)

「第2回東京国際写真ビエンナーレ展」7月12日(土)~8月31日(日)

■展覧会のご案内 03-3272-8600 <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>



交通機関: 山手線池袋駅より徒歩7分(池袋駅西口から徒歩7分)
お車での来館はご遠慮下さい。